



鱒ヶ沢町

保存版

津波

ハザードマップ

安全・安心なまちづくり



町民のみなさまへ

日ごろから防災意識をもちましょう

町民の皆様には、日ごろから町政運営につきまして格別のご理解とご協力を賜りまして、深く感謝申し上げます。

昭和58年5月26日の日本海中部地震は、津波により3人が死亡するなど当町に甚大な被害をもたらしました。また、平成23年3月11日の東日本大震災では、東北地方の太平洋側を中心に壊滅的な被害が発生するなど、私たちに多くの教訓をもたらしました。

このような大震災がいつ起きても対処できるように、私たちは日ごろからしっかりとした防災意識を心掛け、自分の身は自分で守るんだという意識と対策を考えておく必要があります。

町民の安全を守るために、町では防災対策の充実に努めておりますが、安全・安心なまちづくりには、行政機関の活動だけでは決して十分とは言えません。

町民のみなさま一人ひとりが、防災意識を高く持ち、積極的に自らが各種防災活動に参加していくことが大切であり、それが自分の身を守る糧となるはずです。

この「鯉ヶ沢町津波ハザードマップ」は、津波災害に対し、事前に備えることで、日ごろの心構えや予測不可能な災害を最小限にとどめるよう、イラストなどでわかりやすく説明してあります。

家庭内の目につくところに常備され、災害に備えるための資料として参考にしていただければ幸いです。

平成27年9月
鯉ヶ沢町長 東 條 昭 彦

索 引

町民のみなさまへ・索引	1	わが家の「防災・緊急情報」メモ	8
特別警報をご存知ですか?	2	避難所一覧	9
地震対策	3	全図	10
津波対策	4	詳細図No.1	11・12
災害の種類	5	詳細図No.2	13・14
わが家の防災対策&チェック	6	詳細図No.3	15・16
非常時持出品の準備&チェック	7	詳細図No.4	17・18

発 行：鯉ヶ沢町（お問い合わせ先：総務課 0173-72-2111）

制作・著作：株式会社ゼンリン 青森営業所

作 成：平成27年9月

「この資料は、鯉ヶ沢町長の承認を得て、同町都市計画図を使用したものである。（承認番号）平成27年7月2日 27鯉建第60号」

「この成果品は、青森県が作成した測量成果を青森県知事の承認を得て使用したものである。（承認番号平成27年1月15日付け青林第879号）」

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の50万分の1地方図及び2万5千分の1地形図及び電子地形図25000を使用した。（承認番号 平26情使、第244-344号）」

特別警報をご存知ですか？

特別警報は、大規模な災害の発生が切迫していることをお知らせする新しい警報です。
普段からの備えと早め早めの行動があなたや身近な人の命を守ります。

特別警報の発表基準

現象の種類	基準	
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合	
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により	暴風が吹くと予想される場合
高潮		高潮になると予想される場合
波浪		高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合	
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合	

表中の”数十年に一度”の現象に相当する降水量等の客観的な指標は気象庁ホームページで公表しています。

大津波警報などを特別警報に位置づけます

現象の種類	基準
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合（大津波警報を特別警報に位置づける）
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合（噴火警報（噴火警戒レベル4以上）及び噴火警報（居住地域）を特別警報に位置づける）
地震（地震動）	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合（緊急地震速報（震度6弱以上）を特別警報に位置づける）

特別警報が発表されたら

- ・尋常でない大雨や津波等が予想されています。
- ・重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ・ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

命を守るために情報の収集に努めてください

特別警報は、自治体や報道機関を通じて伝えられます。テレビやインターネット、自治体から発信される情報の収集に努めてください。



テレビ・ラジオ



インターネット・気象庁ホームページ



防災無線・広報車

- ・「特別警報が発表されない」は「災害が発生しない」ではありません。
- ・これまでどおり注意報、警報、その他の気象情報を活用し、早めの行動をとることが大切です。
- ・普段から避難場所や避難経路を確認しておきましょう。

※気象庁HPより一部を抜粋して掲載

「特別警報」については、気象庁HPに詳細が掲載されていますので、ご確認ください。

気象庁

〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4
電話：03-3212-8341 FAX：03-6689-2917（耳の不自由な方向け）

気象庁ホームページ
<http://www.jma.go.jp>

特別警報について
<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/tokubetsu-keiho/>

地震対策 地震発生!そのときどうする

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

1~2分

最初の大きな揺れは約1分間

- まず、身を守る安全確保 (手近な座布団などで頭を保護)
- すばやく火の確認 ガスの元栓、コンセント
- 大きな揺れの場合は、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する



揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機等に注意 津波などの危険が予想される地域はすぐ避難



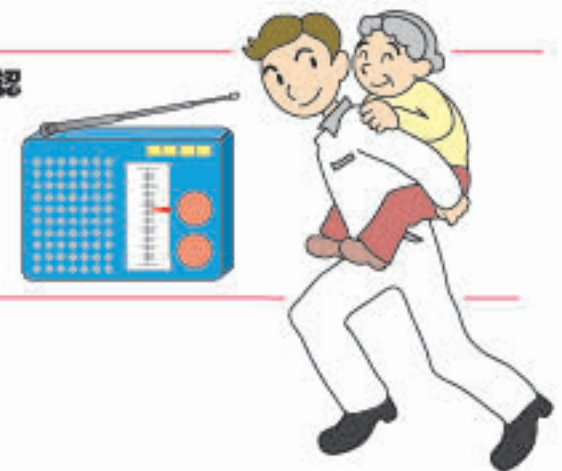
みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- | | | |
|--------------|---|------------|
| ● 隣近所に声をかけよう | ● 災害弱者の安全確保 隣近所で助け合う | ● ケガ人はいないか |
| ● 出火防止 初期消火 | ● 初期消火 ● 消火器を使う ● バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく | ● 余震に注意 |
| | ● 漏電・ガス漏れに注意 電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める | |

3分

ラジオなどで正しい情報を

- 大声で知らせる ● 救出・救護を ● 防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように ● 避難時に車は極力使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する



10分
数時間
3日

協力して消火活動、救出・救護活動を

- 水、食料は蓄えているものでまかなう 3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく
- 災害・被害情報の収集 ● 無理はやめよう
- 助け合いの心が大切 ● 壊れた家に入らない

屋内にいた場合

家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- 乳幼児や病人、高齢者など災害弱者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

デパート・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁さわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。



集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

劇場・ホール

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。あわてずに冷静な行動をとる。



屋外にいた場合

路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- 近くに空き地などが無いときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。



車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

海岸付近

- 高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。



津波対策

津波から命を守るためには、「強い揺れ、弱くてもゆっくりとした長い揺れを感じたら」…すぐに避難!! 「揺れが無くても津波警報を見聞きしたら」…すぐに避難!!



津波警報・注意報

津波による災害の発生が予想される場合には、地震発生後、約3分で大津波警報、津波警報または津波注意報を発表します。その後「予想される津波の高さ」、「津波の到達予想時刻」等の情報を発表します。

マグニチュード8を超えるような巨大地震の場合

「巨大」という言葉を使った大津波警報で、非常事態であることを伝えます

- 巨大地震**の場合は、正しい地震の規模をすぐには把握できないため、その海域における**最大級の津波を想定して**、大津波警報や津波警報を発表します。これにより、津波の高さを小さく予想することを防ぎます。
- このとき、最初の津波警報では、予想される津波の高さを、「**巨大**」、「**高い**」という言葉で発表して**非常事態**であることを伝えます。



「巨大」という言葉を見たり聞いたりしたら、東日本大震災クラスの津波が来ると思って、ただちにより高い場所に避難しましょう!

正確な地震の規模が分かった場合

予想される津波の高さを、1m、3m、5m、10m、10m超の5段階で発表します



「津波の高さ」は津波がない場合の海面からの高さです。津波が陸上で崖などを駆け上った高さは、津波の高さの何倍にも達することがあります。

津波に関する情報

津波警報の発表後、沖合や沿岸の観測点で観測した津波の高さや到達時刻を発表します。

- 高い津波が来る前は、津波の高さを「観測中」として発表します。
- 沖合で観測された津波の情報をいち早く伝えます。

津波警報・注意報の分類と、とるべき行動

	予想される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表 (発表基準)	巨大地震の 場合の表現		
大津波警報	10m超 (10m<高さ)	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
	10m (5m<高さ≤10m)			
	5m (3m<高さ≤5m)			
津波警報	3m (1m<高さ≤3m)	高い	ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう!	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。
津波注意報	1m (20cm≤高さ≤1m)	(表記しない)	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。	海の中では人は速い流れに巻き込まれる。養殖いかだが流失し小型船舶が転覆する。

※津波警報等の発表時には、各区分の**高い方の値**を、予想される津波の高さとして発表します。

(※気象庁ホームページより大部分を抜粋)

避難の際にはご近所にも声をかけあい、地域で協力し合う避難を心がけましょう。!



お年寄りや体の不自由な方などの避難に協力しましょう。



水深が浅くなるほど、津波の高さは高くなります。またV字型の湾では急激に高くなります。



陸上に着いた津波も早いので、津波を見てからでは逃げられません。



津波は繰り返し襲ってきます。必ずしも第一波が最大とは限りません。少なくとも津波警報が解除されるまで警戒が必要です。



津波注意報でも、海辺や川べりには近づかないようにしましょう。



災害の種類

大雨などにより、川の水量の増加や地中にしみこんだ水分などが起因となり、大きな災害に発展する場合があります。事前にその災害のメカニズムを理解し、身近に起こりえる災害に対応しましょう。

川の氾濫

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。



外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。



土砂災害

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気付いた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難するとともに、役場などの関係機関に連絡してください。日ごろから危険箇所や避難場所・避難経路を確認しておくことも重要です。

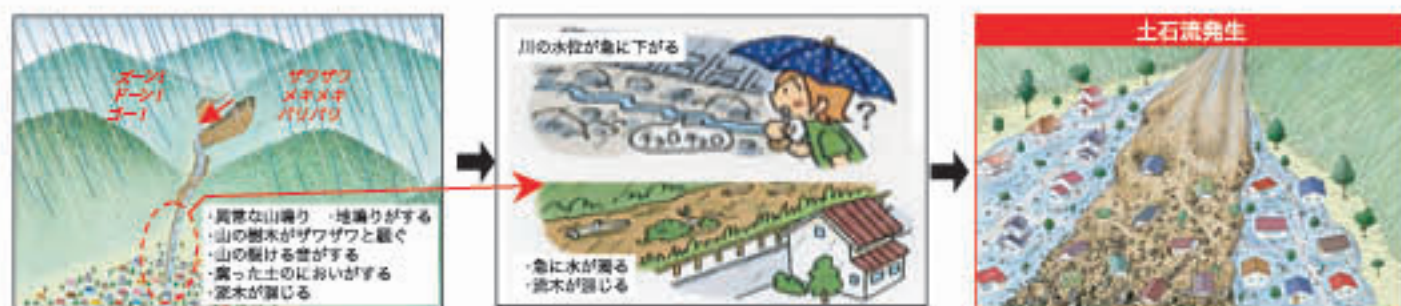
がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や田畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

わが家の防災対策&チェック

家の中の安全対策

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

1

家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。



2

寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない

就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる危険性がある。



3

家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



4

安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

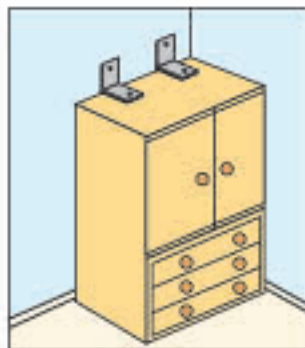
玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



家具の転倒、落下を防ぐポイント

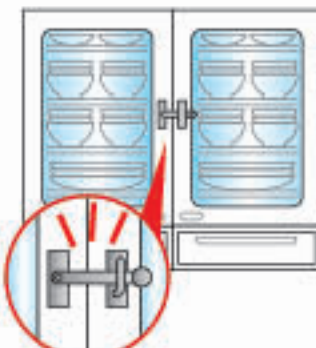
タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



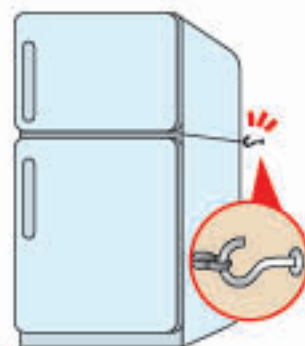
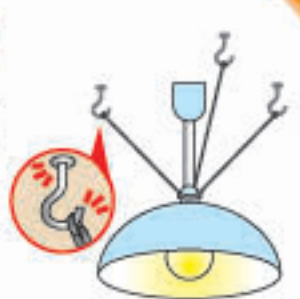
食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



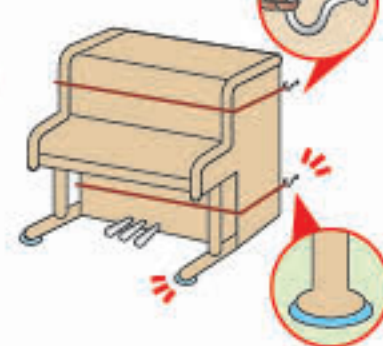
冷蔵庫

2ドアの場合は、扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。



テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。



ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。

家の周囲の安全対策

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

屋根

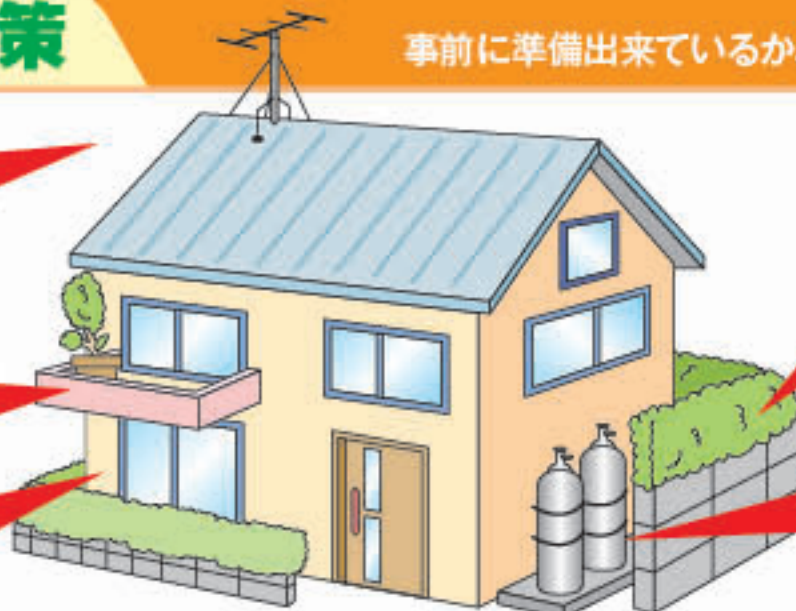
不安定な屋根のアンテナや、屋根がわらは補強しておく。

ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。

窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。



ブロック塀・門柱

土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

プロパンガス

ボンベを鎖で固定しておく。

非常時持出品の準備&チェック

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。

非常時持出品(例)

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

携帯ラジオ



- ラジオ
- 電池(多めに用意)

救急医療品



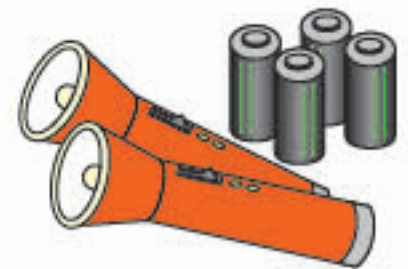
- 持病薬
- 絆創膏
- 傷薬
- 包帯
- 風邪薬
- 胃腸薬
- 鎮痛剤

貴重品



- 現金
- 預金通帳
- 印鑑
- 免許証
- 健康保険証
- 権利証書

懐中電灯



- 懐中電灯(出来れば一人にひとつ)
- 電池(多めに用意)

非常食品



火を通さなくて食べられるもの、食器など

- カンパン
- 缶詰
- 非常用食品
- ミネラルウォーター
- 缶切り
- 栓抜き
- 紙皿
- 紙コップ
- 水筒

その他



- 衣類(下着・上着など)
- タオル
- 生理用品
- 粉ミルク
- 離乳食
- 紙おむつ
- ウェットティッシュ
- 雨具
- ヘルメット
- ライター
- ラップフィルム
- 防災マップ(本書)
- (止血や食器にかぶせて使う)
- 防寒具(時季による)

非常時用備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(最低3日)を生活できるようにチェック✓しましょう。

飲料水



- 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)
- 貯水したポリタンクなど

非常食品



- お米(アルファ米も便利)
- 缶詰・レトルト食品
- 梅干し・調味料など
- ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)

燃料



- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- 固形燃料

その他



- 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
- 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- 調理器具(なべ・やかんなど)
- バケツ・各種アウトドア用品など

非常時持出品は定期的に点検を!

避難生活が長引くときに便利なもの

携帯トイレ、使い捨てカイロ、裁縫セット、ガムテープ、地図、さらし、筆記用具(マジックなど)、スコップなど。



阪神・淡路大震災で役に立ったもの

ポリタンク、ホイッスル、予備の眼鏡・補聴器、ビニールシート、新聞紙、補助用具としてロープ、スコップ、ボールやハンマー、のこぎり、車のジャッキなど。

非常時持出品は、使用するとき支障のないように、定期的に点検しておきましょう。とくに食品や飲料水の賞味期限はまめにチェックし、賞味期限がせまったものから順に入れ替えておきましょう。

わが家の「防災・緊急情報」メモ

非常時・緊急時に連絡してほしい方や、利用してもらいたいわが家の情報です。
災害時に救助の方や、緊急時に救急隊・医療機関・町に情報を提供します。

世帯主氏名		電話	
住所			

避難場所	
家族が離ればなれになった時の避難場所	

家族構成 連絡先	氏名	生年月日	電話(携帯・会社・学校)	住所	メモ	

家族の 緊急情報・ 救急メモ	氏名	血液型	持病・アレルギー	持病薬	かかりつけ医療機関	
【メモ】※書ききれなかった内容や、知ってほしい情報(介護情報・救急隊員への伝言など)をお書きください。						

緊急時 連絡先	氏名	間柄	電話	住所	メモ	

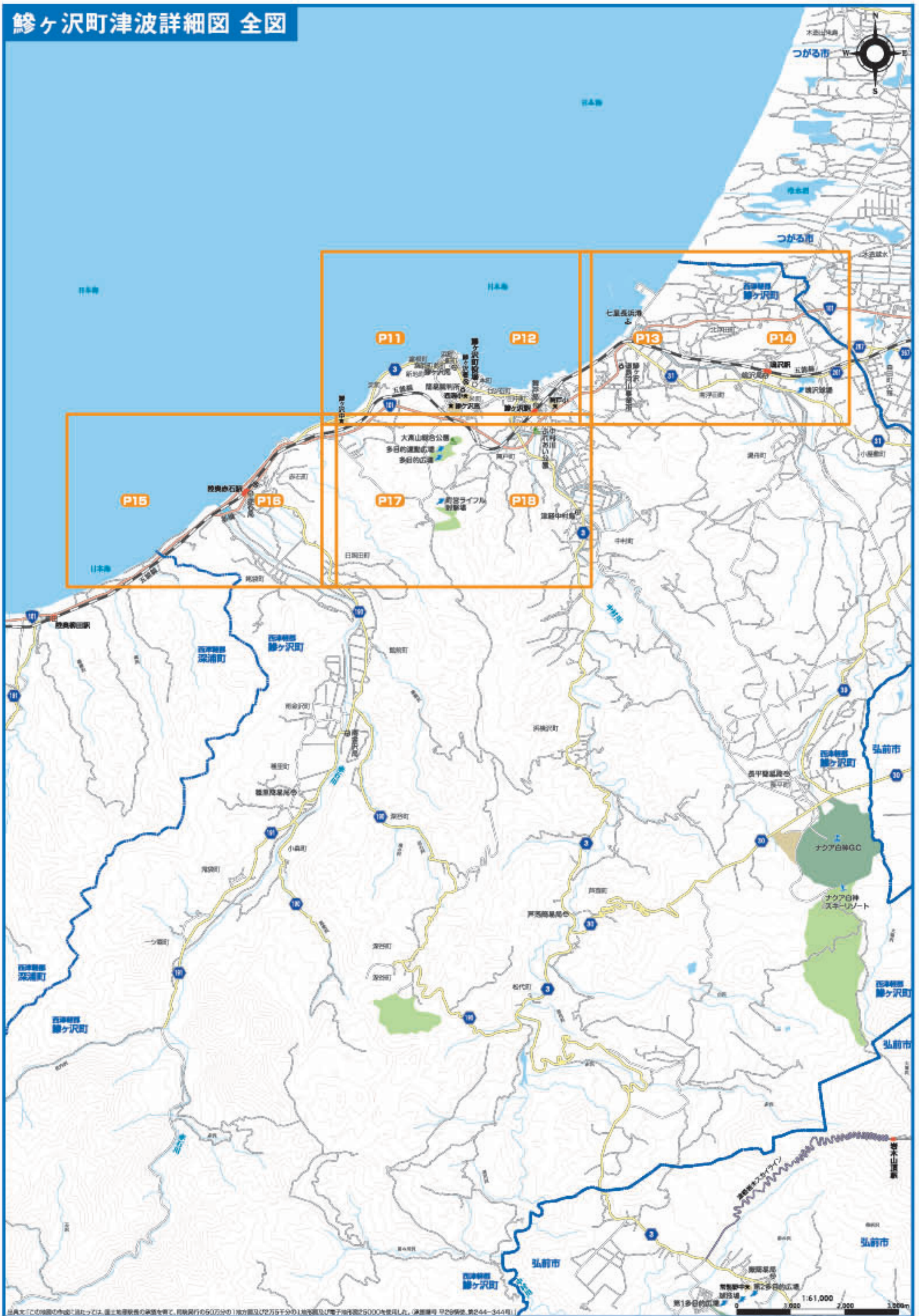
指定緊急避難場所一覧

NO	施設・場所名	住所	管理担当 連絡先	掲載頁	指定 避難所 との 重複	対象とする異常な現象の種類								想定収容 人数
						洪水	崖崩れ・ 土石流 及び 地滑り	高潮	地震	津波	大規模な 火事	内水氾濫	火山現象	
1	西海小学校	舞戸町字小夜 190	72-2078	P12	●	●		●	●	●	●	●	●	600
2	鯉ヶ沢中学校	赤石町字大和田 27	72-3083	P11	●	●	●		●		●	●	●	1,300
3	山村開発センター	本町 209-2	72-2859	P12	●	●	●				●	●	●	250
4	勤労青少年ホーム	舞戸町字小夜 151	72-2111	P12	●	●	●	●		●	●	●	●	50
5	勤労者体育センター	舞戸町字小夜 151	72-2111	P12	●	●	●	●		●	●	●	●	500
6	室内温水プール	舞戸町字小夜 151	72-5700	P12	●	●			●	●				600
7	青森県立鯉ヶ沢高等学校	舞戸町字小夜 616	72-2106	P11	●					●				300
8	鯉ヶ沢こども園	本町 51-2	72-2067	P12	●	●	●	●				●	●	150
9	天童山公園管理棟	舞戸町字小夜 616	72-2111	P11	●	●		●		●	●	●	●	50
10	中央公民館	本町 209-2	72-2859	P12	●	●	●				●	●	●	100
11	(旧) 鯉ヶ沢第一中学校	舞戸町字鳴戸 390	72-2111	P13	●	●	●	●		●	●	●	●	600
12	舞戸小学校	舞戸町字久富 27	72-2789	P12	●	●	●	●	●		●	●	●	500
13	舞戸公民館	舞戸町字上富田 149-2	72-5884	P12	●	●	●				●			400
14	鯉ヶ沢町総合保健福祉センター	舞戸町字後家屋敷 9-4	82-1602	P18	●	●	●	●	●	●	●	●	●	250
15	(旧) 赤石小学校	赤石町字山崎 87	72-2111	P16	●	●	●	●		●		●	●	300
16	(旧) 南金沢小学校	南金沢町字晴間 20-8	72-2111		●	●	●	●		●	●	●	●	300
17	(旧) 深谷小学校	深谷町字細ヶ平野山 104	72-2111		●	●	●	●		●		●	●	50
18	(旧) 一ツ森小学校	一ツ森町字上禿 88-2	72-2111		●	●	●	●		●		●	●	50
19	赤石公民館	赤石町字宇名原 232-2	72-2858	P16	●	●	●	●	●	●	●	●	●	100
20	南金沢生活改善センター	南金沢町字床夏 204-3			●	●	●	●		●		●	●	50
21	一ツ森林業センター	一ツ森町字上禿 88-2			●	●		●		●		●	●	50
22	(旧) 鳴沢小学校	北浮田町字外馬屋 51-3	72-2111	P14	●	●	●	●		●	●	●	●	500
23	(旧) 建石小学校	建石町字島田 150	72-2111		●	●	●	●	●	●	●	●	●	500
24	山田野集会所	建石町字大曲 217-2			●	●	●	●		●		●	●	50
25	鳴沢公民館	北浮田町字外馬屋 83-3	82-2051	P14	●	●	●	●	●	●	●	●	●	100
26	鳴沢農業実習センター	建石町字大曲 44-17			●	●	●	●		●		●	●	50
27	北浮田集会所	北浮田町字今須前田 57-1		P13	●	●	●	●		●	●	●	●	50
28	中村公民館	中村町字中山ノ井 170-1	82-1127	P18	●	●	●	●	●	●		●	●	100
29	南浮田農業センター	南浮田町字早田 83-2		P13	●	●	●	●		●		●	●	50
30	アグリビジネスホール	建石町字成沢 77			●	●	●	●	●	●	●	●	●	100
31	長平生活改善センター	長平町字甲音羽山 65-123			●	●	●	●		●		●	●	50
32	長平青少年旅行村研修センター	長平町字甲音羽山 65	72-1571		●	●	●	●		●		●	●	100
33	芦花へき地保健福祉館	芦花町字鷹子石 82-5			●	●	●	●		●	●	●	●	50
34	中下農村婦人の家	中村町字下清水崎 216-12			●	●	●	●		●		●	●	50
35	浜横沢生活改善センター	浜横沢町字金沢 104-2			●	●	●	●		●		●	●	50
36	松源寺	赤石町字宇名原 117	72-3098	P16						●				50
37	館蔵荷神社	舞戸町字鷺見		P18						●				50
38	鯉ヶ沢ファッション	舞戸町字北禿 146	72-2111	P12						●				50
39	山寺子	田中町 28-1		P12						●				50
40	石上神社	七ツ石町 140		P12						●				50
41	神明宮	米町		P12						●				50
42	白八幡宮	本町 69		P11						●				50
43	新地稲荷神社	舞戸町字小夜		P11						●				50
44	大和田貯水池	赤石町字大和田 35-62		P11						●				100
45	舞戸町近くの高台	舞戸町字三ツ沢・西阿部野		P18						●				100
46	北浮田町近くの高台	北浮田町字今須		P13						●				100
47	北浮田町近くの高台	北浮田町字今須浜田		P13						●				100
48	南浮田町近くの高台	南浮田町字米山		P13、P14						●				100
49	姥袋町近くの高台	姥袋町字大磯		P15						●				100
50	姥袋町近くの高台	姥袋町字霜坂熊ヶ沢		P16						●				100
51	日本海拠点館	舞戸町字北禿 181	72-5555	P12						●				100
52	鯉ヶ沢中学校第二体育館	舞戸町字鳴戸 390	72-2111	P13		●	●	●		●	●	●	●	600
53	中村保育所	中村町字上山ノ井 48	72-2704		●	●	●	●		●		●	●	50
54	(旧) 中村小学校	中村町字上山ノ井 62	72-2111		●	●	●	●		●	●	●	●	250
55	川尻営農総合研修所	北浮田町字今須 154-178		P13	●	●	●	●		●		●	●	50
56	小森林業センター	小森町字野田 99-3			●	●	●	●		●		●	●	50
57	(旧) 第二松代集会所	松代町字白沢 203-2			●	●	●	●		●		●	●	20

※網掛け表示の避難場所は、地図の収録範囲外になります。

※ No17、18、23、38 の施設は事業者等に貸与しておりますが、緊急避難時の連絡先という観点から役場の電話番号を掲載しております。

鯉ヶ沢町津波詳細図 全図

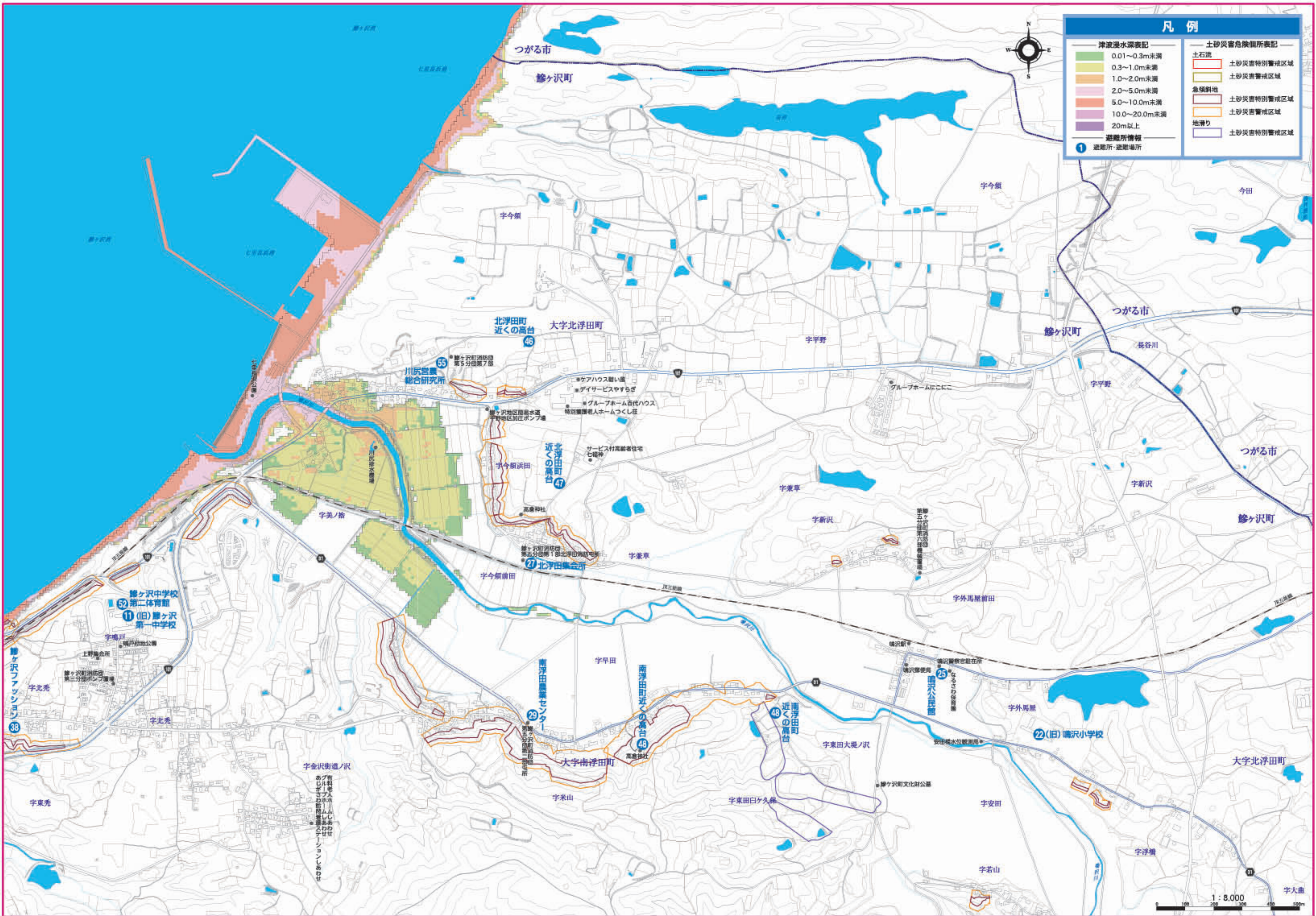




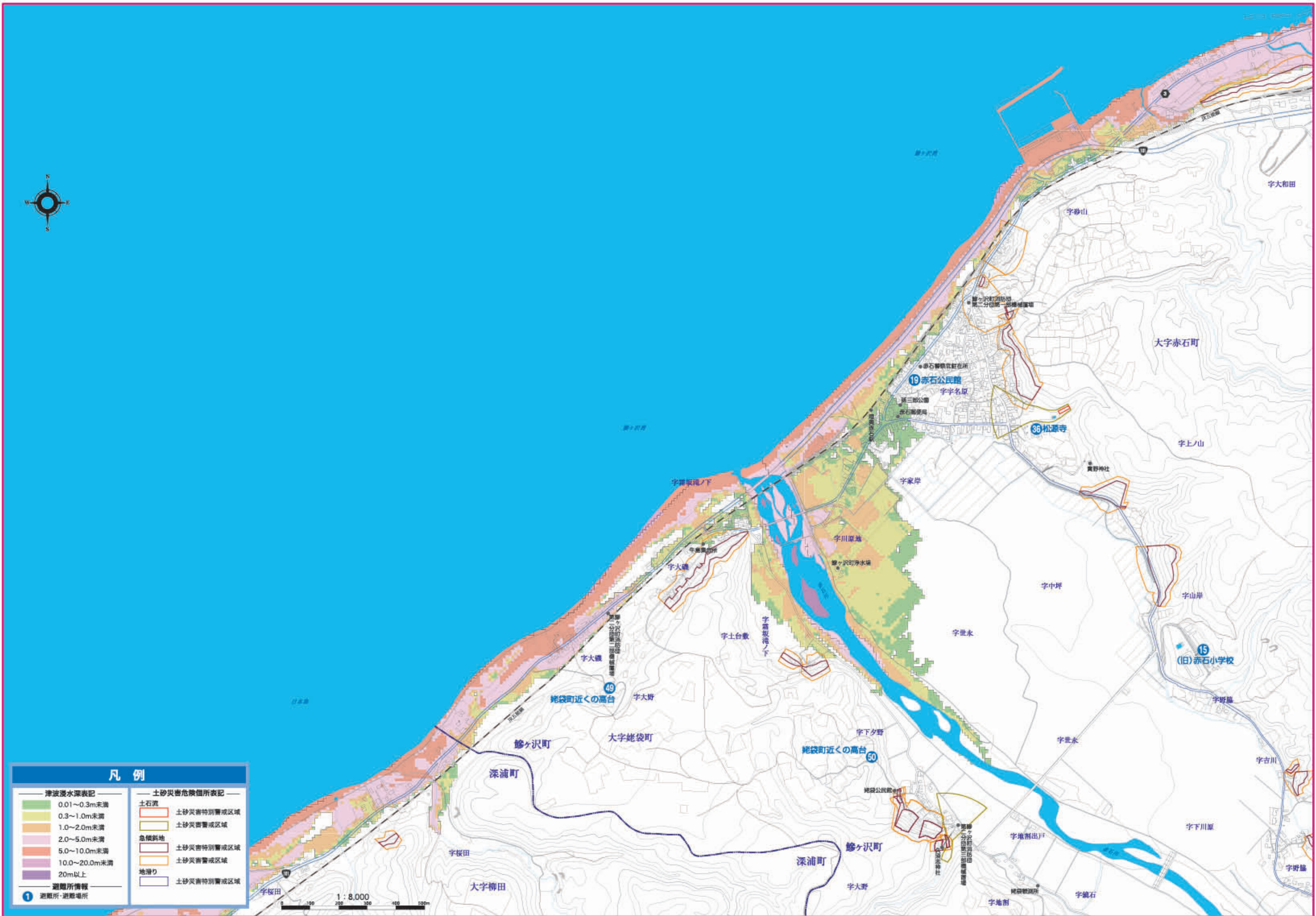
凡例	
津波浸水深表記	土砂災害危険箇所表記
0.01~0.3m未満	土石流
0.3~1.0m未満	土砂災害特別警戒区域
1.0~2.0m未満	土砂災害警戒区域
2.0~5.0m未満	急傾斜地
5.0~10.0m未満	土砂災害特別警戒区域
10.0~20.0m未満	土砂災害警戒区域
20m以上	地滑り
避難所情報	土砂災害警戒区域
1 避難所・避難場所	



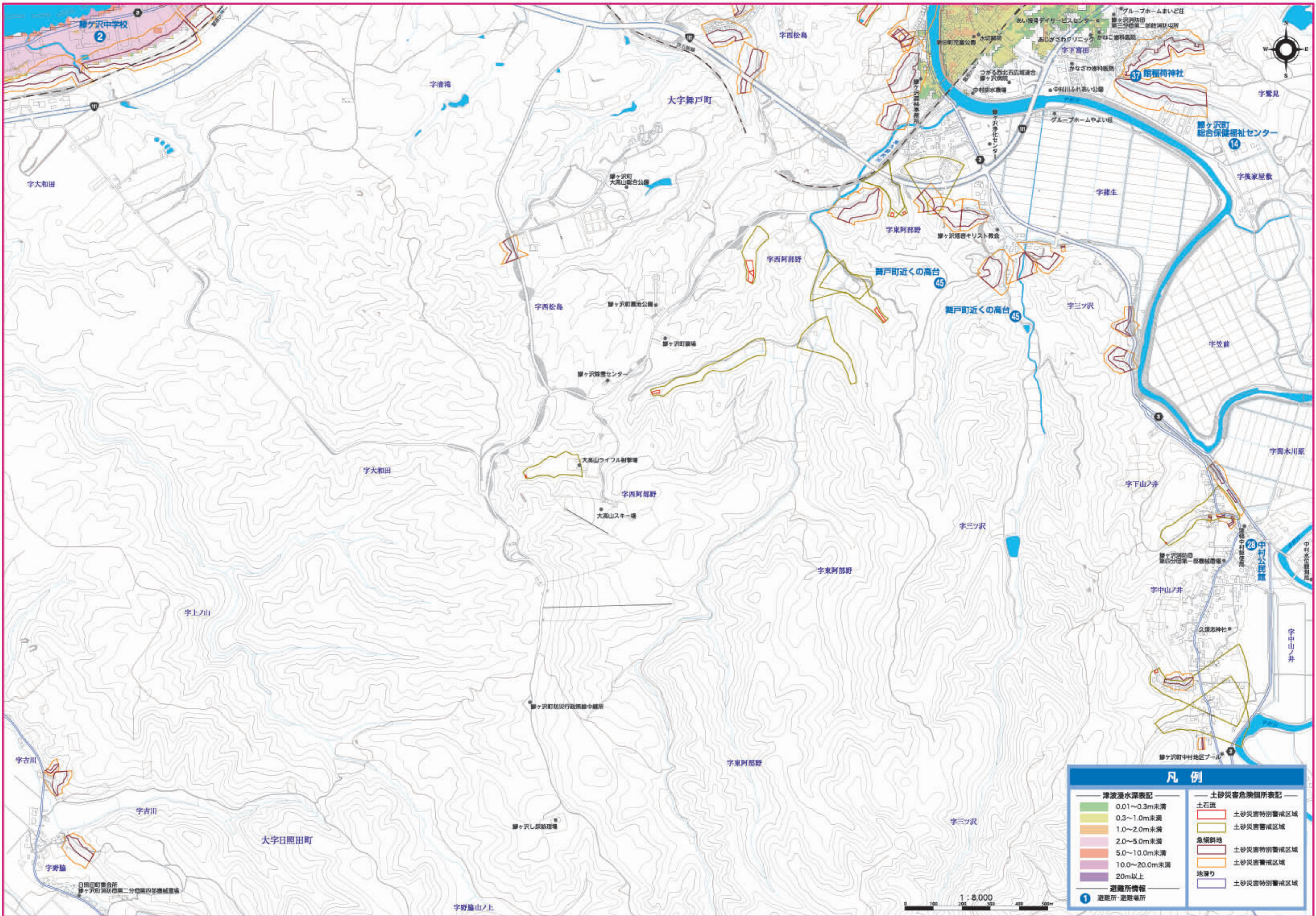
1 : 8,000
0 100 200 300 400 500m



凡例	
津波浸水深表記	土砂災害危険箇所表記
0.01~0.3m未満	土石流
0.3~1.0m未満	土砂災害特別警戒区域
1.0~2.0m未満	土砂災害警戒区域
2.0~5.0m未満	急傾斜地
5.0~10.0m未満	土砂災害特別警戒区域
10.0~20.0m未満	土砂災害警戒区域
20m以上	地滑り
避難所情報	土砂災害特別警戒区域
① 避難所-避難場所	



凡例	
津波浸水深表記	土砂災害危険箇所表記
0.01~0.3m未満	土砂災害特別警戒区域
0.3~1.0m未満	土砂災害警戒区域
1.0~2.0m未満	土砂災害特別警戒区域
2.0~5.0m未満	土砂災害警戒区域
5.0~10.0m未満	土砂災害特別警戒区域
10.0~20.0m未満	土砂災害特別警戒区域
20m以上	
避難所・避難場所	



早めの避難があなたの命を救います

洪水時に堤防が決壊した場合には、はん濫水の勢いで堤防近くの家屋は破壊されたり流失したりする可能性があります。

そのようなときに避難せず家屋にとどまっていた場合には、人命に関わる事態の発生も予想されます。

洪水時には上流域も含めた雨量や河川水位情報などを早くから収集し、町からの避難情報などにも注意しながら、堤防が決壊する前には必ず避難が完了するよう早めの行動を心がけてください。

インターネットを利用したリアルタイム情報提供

全国の河川の「雨量」「水位」「河川予警報」等の情報をリアルタイムで提供することにより、近年頻発している大雨・集中豪雨による水害・水難時の迅速・的確な避難等が可能になります。

国土交通省「川の防災情報」

- ・パソコンから <http://www.river.go.jp/>
- ・携帯電話から <http://i.river.go.jp/>

青森県「河川砂防情報提供システム」

- ・パソコンから <http://www.kasensabo.bousai.pref.aomori.jp>

青森県「土砂災害警戒情報システム」

- ・パソコンから <http://www.dosya-keikai.pref.aomori.jp>

青森県「土砂災害警戒区域等マップ」

- ・パソコンから <http://www.sabomap.jp/aomori/>

本書の使い方

本書は、いずれ起こるかもしれない様々な災害に対し、事前に備えることを目的として作成しました。予測不可能な災害の被害を最小限にとどめるため、常日ごろから内容に目を通し理解を深めていきましょう。

本書の特徴

本書は、災害時に持ち運びができるように冊子型として作成しました。通常は、地図部分や「わが家の防災・緊急情報メモ」ページを開いた状態で、壁などにピン留めして掲示するか、ヒモなどでつるし身近に置き、緊急時に持ち出してご活用ください。